

評価委員会会議

平成25年度

日 時：平成26年1月20日（月）13：00～14：30
場 所：長崎大学薬学部柏葉会館会議室（柏葉会館2階）

平成26年度

日 時：平成27年1月20日（火）付け資料に基づく書面会議

平成27年度

日 時：平成28年3月1日（火）付け資料に基づく書面会議

平成28年度

日 時：平成28年9月15日（木）14:00～15:30
場 所：長崎大学事務局第3会議室（事務局2階）



「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」評価委員会委員長ピアレビュー
～最終評価（平成28年度）実施について～

評価委員会委員長 丸山 徹

文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組「多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成拠点」事業は、平成28年度で文部科学省からの補助事業期間が終了する。平成24年度から始まった本事業取組の5年間の実施状況と成果を点検するため、平成28年9月15日に長崎大学にて評価委員会（書面会議を含めて延べ4回目になる委員会）を開催した。

まず、本事業の推進事務局を担当している長崎大学薬学部の中嶋教授から、「在宅医療・福祉コンソーシアム長崎」側がまとめた平成24年度からこれまでの取組実績に関する自己評価資料についての説明が行われた。評価項目は、①本部委員会・推進委員会・運営委員会の各種委員会の定期的な開催、並びに事業推進計画の打合せを行う作業会議等の頻繁な開催による実行性ある連携教育を展開するための実施体制の構築、②広報活動・成果発表・情報発信の継続及び広報実施のあり方の検討、③「NICEキャンパス長崎」に科目登録・開講した大学間単位互換プログラムの体系化と継続実施に向けての検討、④本事業活動の情報発信を目的としたシンポジウムやフォーラム等の開催、⑤多職種協働による在宅がん医療・緩和ケア教育に関する教育セミナー等の開催、⑥評価委員会による点検・評価の実施の6項目である。当初計画以上の成果を上げた場合はS、当初計画通りの成果であった場合はA、当初計画以下の成果に終わった場合はBと3段階の基準で評価を実施した。取組実績に対する各評価委員からの意見を総括し、委員長としてのピアレビューをまとめた。

①の実施体制の構築については、3大学・4自治体・13職能団体等から構成される大規模組織による実施体制を当初計画通り継続的に維持し、連携教育の成果を上げてきたこと、並びに在宅医療において全国的にその実績が高く評価されている認定NPO法人長崎在宅Dr.ネットが、事業期間中に新たな連携機関として本コンソーシアムに加わり連携組織が拡充したことを委員全員が高く評価した。①については当初計画を超える成果として自己評価がSであったが、委員全員も同じ評価結果であった（S（8名））。②の広報・情報発信の継続と実施のあり方については、取組開始当初よりホームページを活用したマルチチャンネルによる広報・情報発信が継続的に実施されていることに加え、本評価委員会からの提言を取り入れた形で、新たに「NICEキャンパス長崎」に開講している「大学間単位互換科目」の授業内容のエッセンスを「WEB講座」として動画配信する事業計画を追加し、e-ラーニングによる学生の学習環境の強化を図ったことを委員全員が高く評価した。②については当初計画を超える成果として自己評価がSであったが、①と同様に委員全員の評価結果も同じであった（S（8名））。③～④の大学間単位互換プログラムの体系化と継続実施に向けての検討、及びシンポジウムやフォーラム等の開催といった本事業取組の中核にあたる項目については当初計画通り着実に実行し成果を上げているとの意見が多かった。特に、平成28年度で文部科学省の補助事業期間は終了するが、代表校の長崎大学では今後も本事業の成果を発展

的に継承していけるよう、すでに平成29年度は学内予算で「NICEキャンパス長崎」の大学間単位互換科目を継続実施していくことを決定していることは評価できる。③～④については自己評価がAであったが、委員全員が同じ評価結果であった（A（8名））⑤の教育セミナー等の開催については当初の予定通りに実施されていることから、全員一致で自己評価（A）と同じ結果が提示された。⑥の評価委員会による点検・評価の実施については自己評価がAであったが、委員の中にはこれまで定期的に評価委員会を開催し、助言に対しても速やかな改善が行われ、今後の事業継続がすでに決定していることを高く評価し、自己評価を超えるS評価とした者もいた（S（1名）、A（7名））。

以上示したように、平成24年度からこれまでの取組実績に関する全ての項目について、当初計画の通りあるいは計画以上に実施されてきたことを確認することができた。本事業は、平成27年度に文部科学省が実施した「大学間連携共同教育推進事業中間評価」において、地域連携分野の全国25事業の中で唯一の最高評価（S評価：当初計画を超えた取組であり、本事業の目的を十分に達成することが期待できる）を受けたが、今回の最終評価委員会の点検でもそれが納得できた。現在、連携大学や自治体・関連職能団体等では、今後も本コンソーシアムによる多分野ネットワークを継続していくため、新たな協定を締結する協議に入っている。長崎で始まった先進的な多職種連携教育の取組の更なる展開を大いに期待したい。